

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
6	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcoholic Beverage and Long-Term Mortality in Elderly People Living at Home 在宅高齢者における飲酒と長期死亡率の関連について	
執筆者	
Renzo Rozzini, Anette Ranhoff, Marco Tabucchi	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Journal of Gerontology 62,1313-1314,2007	
キーワード	
在宅、高齢者、飲酒、長期、死亡率	
要 旨	
<p>(目的)</p> <p>在宅高齢者における飲酒と長期死亡率の関連について検討する。</p>	
<p>(方法)</p> <p>北イタリアに在住する 70 歳から 75 歳の高齢者 1201 人を対象に 12 年間追跡調査を行った。質問表により地理的要因、社会適要因、精神的要因、身体機能、健康状態、医療利用状況の情報を収集した。飲酒状況により禁酒者、中等量飲酒者（男性一日 60 グラム未満、女性一日 40 グラム未満）多量飲酒者（男性一日 60 グラム以上、女性一日 40 グラム以上）に分類した。追跡率は 50%であった。</p>	
<p>(結果)</p> <p>ベースライン調査時の検討では中等度飲酒者は禁酒者と比較して、身体機能、精神状態も良好であり、慢性疾患も少なかった。高学歴者や独居者の割合も多かった。多量飲酒者は男性、既婚者が多く、身体機能の低下や抑うつ、医療利用は少ないが経済状態は貧しい。12 年間の追跡調査結果では中等量飲酒者は禁酒者や多量飲酒者より生存率が良好であった(56%,44%,39%)。性別、収入、身体機能、認知症の有無、抑うつの有無などを調整しても中等量飲酒は死亡率に+の影響を与えていた。中等量飲酒者の相対リスク (95%信頼区間) は禁酒者を対照とすると 0.7 (0.6-0.9)、多量飲酒者を対照とすると 0.9 (0.7-1.2) であった。</p>	
<p>(結論)</p> <p>今回の検討では中等量飲酒者は健康特性が良好であった。健康なものだけが支援なしに独居できる。中等量飲酒者は独居している率が高いことから、飲酒が健康全般によい影響を及ぼしている可能性について検討する必要がある。</p>	